

データ流通の最新動向を学ぶ産学官連携勉強会

データ経済圏の 新たな潮流を 読み解く

～EU発の一般データ保護規則(GDPR)
と「自己主権経済」の行方～

2019 **04** 12 Fri

18:30-20:00 (予定)

※セミナー (50分)、意見交換 (30分)

講師：
武邑光裕 氏

(たけむら みつひろ)

主催：神戸市 共催：国立大学法人神戸大学、
兵庫県立大学、神戸情報大学院大学、
神戸電子専門学校、みなと銀行

後援：神戸商工会議所

対象：民間事業者、大学など

場所：

神戸電子専門学校北野館 地階ソニックホール

神戸市中央区北野町 1-18

<https://www.kobedenshi.ac.jp/access.html>

tel: 078-242-0014

参加無料

定員 100 名

申込み順

概要：

国内では急激なる社会変化の風上は米中の2カ所（シリコンバレー、深圳）のみであると錯覚しがちです。欧州の新しい中心ベルリンでは、そのどちらともカラーの異なる新しい経済の姿が急速に現れています。市民の個人情報をEU域外に転送することを禁止する、GDPR（一般データ保護規則）が昨年5月に施行されました。これまでシリコンバレーのテック企業が世界中の個人情報を蒐集し、オンライン追跡広告によって莫大な利益を得てきましたが、欧州ではたびたび大きな訴訟問題になっています。どこが危険で、それによって何が起るのか。ベルリンでは、プライバシーは自分で守り、自身で個人情報を管理することを選択する人が増えています。「個人データは現代のオイルと呼ばれる程の大きな経済価値があることを日本人はまだ知らない。そのことを私たちが自覚したときに、個人と企業との新たな互惠関係が始まると思います」と武邑氏は語ります。今まさにベルリンを発火点として、ここから世界を動かすような大変革が始まろうとしています。次世代のモバイルバンキング、API経済、分散元帳テクノロジー（DLT）、暗号通貨、AI（人工知能）、IoT（モノのインターネット）の核心は、国家や企業でもなく、強い市民が創り出す「自己主権経済」にあります。神戸（市民）復権のモデルは意外や意外、欧州ドイツの首都ベルリンにありました。メディア美学者武邑光裕氏来日に合わせ特別にご講演いただきます。

講師： 武邑光裕 氏

（たけむら みつひろ）

1954年生まれ。メディア美学者。デジタルライフ研究センター（NY）フェロー。武邑塾主幹。日本大学芸術学部、京都造形芸術大学、東京大学大学院、札幌市立大学で教授職を歴任。80年代よりメディア論を講じ、インターネットの黎明期から現代のソーシャルメディアからAIにいたるまで、デジタル社会環境を研究。著書に『記憶のゆくたてーデジタル・アーカイブの文化経済』、『さよなら、インターネットーGDPRはネットとデータをどう変えるのか』など。現在ベルリン在住。



参加申し込み方法：

【会社・団体名】【所属部署】【住所】【電話番号】【Email】を記載のうえ、神戸市企画調整局政策企画部産学連携課 北尾、井筒 kobeppp@office.city.kobe.lg.jp までメールでお申し込みください。

<申込締切：4月5日（金）>